

(5)平成 28 年度吹田市地域医療推進懇談会の取組報告及び平成 29 年度の取組について

1 平成28年度の開催状況

主な議論のテーマ

1 在宅医療推進の環境づくり

- ・訪問診療など日常的な療養支援について
- ・往診体制や入院病床の確保など、急変時支援について
- ・患者の希望や状態等を踏まえた入院医療機関から自宅等への退院支援（在宅復帰）について
- ・患者の希望等を踏まえた看取りについて

2 かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬剤師（薬局）の定着促進

- ・かかりつけ医等を持つ意義について市民への普及啓発
- ・紹介状を持たずに大病院にかかる軽傷の外来患者への対応
- ・患者の意向を踏まえた逆紹介の円滑化について

平成28年度の開催状況

回数：4回開催
協議内容：上記テーマについて

- ①現状把握（在宅医療等の医療資源の把握、訪問看護の実態調査、医療に関する市民アンケート調査）
- ②課題抽出
- ③課題に対する対策の方向性

2 目指す姿と検討すべき対策の柱

目指す姿

- 将来の在宅医療の医療需要に見合った在宅医療の供給体制の整備
- 医療関係者及び多職種連携により、安心して質の高いケアの提供体制の構築(※)
- 在宅医療やかかりつけ医等についての市民理解の促進 (※)在宅医療・介護連携推進事業とあわせて推進

1 在宅医療等を支える連携体制の構築

- ①医師の在宅医療に対する負担軽減のための連携体制の検討
- ②訪問看護の事業所間の協力支援体制の構築等
- ③病病連携・病診連携等の促進
 - 急変時における入院受入れ体制の検討
 - 情報共有による連携促進の工夫（地域連携バス・ICTの研究・医療資源等のリスト化）
 - 病院連携室の対応の均てん化 等

※多職種間の職域・職能の理解促進や顔の見える関係づくり、退院支援のフローチャートづくり等については、在宅医療・介護連携推進事業として推進

2 医療関係者等の理解や知識・スキルの向上

在宅医療や在宅療養、在宅看取り等についての知識や理解、技術の向上
（診療所医師・病院医師・病院看護師・退院支援担当者・薬剤師・歯科医師・施設職員等）

3 市民への啓発・情報提供

適正な病床機能やかかりつけ医、在宅看取りという選択肢、最期の迎え方等について、市民啓発や情報提供のあり方の検討

3 今年度の進め方

1 在宅医療等を支える連携体制の構築

- ① 医師の在宅医療に対する負担軽減のための連携体制の検討
 - 医師会で開催されている高齢者対策委員会等での議論を踏まえて、ご意見をいただく。
- ② 訪問看護の事業所間の協力支援体制の構築等
 - 事業所連絡会訪問看護部会や、部会への未加入事業所も参加している任意のネットワークの機会等にて、改めて訪問看護に係る課題や対策等について意見聴取。
- ③ 病病連携・病診連携等の促進
 - 急変時の入院受入れ体制を含め、患者の状態に応じた適切な病病連携や病診連携等について、作業部会にて協議する。

2 医療関係者等の理解や知識・スキルの向上

- 診療所の医師、また病院医師や病棟看護職員等が、在宅療養患者の生活や在宅医療・介護支援体制等の現状についての一層の理解が促進するよう、各団体にて取組みを推進する。
- 今年度第1回懇談会にて、深めるべきポイントの確認と、各団体の昨年度の取組みの共有を行い、それらを参考にして各団体にて推進していただく。

3 市民への啓発・情報提供

○地域医療推進に関するシンポジウム

目的 病床の機能分化と連携を踏まえた適切な受診行動の推奨や、かかりつけ医等の定着促進、及び在宅医療の現状理解や意識の向上など、市民が医療との関わり方や、地域医療の在り方等について主体的に考えることができるよう、基調講演とシンポジウム形式による市民啓発を行う。

対象 市民 200 名程度

日程及び内容 調整中

○出前講座の実施や、ホームページ・市報等での情報提供

かかりつけ医等を持つことのメリットや、診療所と病院の役割分担と連携などを踏まえた上手なお医者さんのかかり方について、また、在宅療養が必要となった場合にも、在宅医療という選択肢があるということ等について